被災地復興へ祈りのピアノ

演奏後あいさつする倉田さん＝津市西丸之内の津リージョンプラザお城ホールで

伊勢新聞パール倶楽部（中川千惠子会長）は六日夜、津市西丸之内の津リージョンプラザお城ホールで、東日本大震災の被災児童を支援するためのチャリティピアノコンサートを開き、津市にゆかりのピアニストでウィーン国立音楽大学講師、倉田真里さんがドビュッシーやベートーベン、バッハ、リストなど十三曲を、被災地復興の祈りを込めて熱演した。

女性同士の交流や研さんをしている同倶楽部が、社会貢献活動として初めて実施。演奏後に中川会長が、大震災で親を失った遺児の心のケアを行う「あしながが育英会」（東京）関係者に、入場料や協力企業の協賛金、会場での募金による寄付金の目録を贈った。

本社パール倶楽部チャリティ演奏会 倉田真里さんが13曲
あしながが育英会へ寄付

倉田さんは冒頭、ドビュッシーの「前奏曲集」から「沈める寺」など三曲を演奏。水に沈んだ町が祈りによって再び浮上した感動的なケルト神話を題材にした「沈める寺」は、津波被害を受けた被災地に思いを寄せてあえて選曲したそうで、荘厳な音色に約四百人の聴衆が聴き入った。

ショパンのノクターンやバッハのトッカータでさらに聴衆を魅了し、最後のリスト「ダンテを読んで」では、天国と地獄が交差する壮大な曲を力強く演奏した。

弾き終えた倉田さんは、オーストリア・ウィーンでもチャリティー演奏会を三度実施して被災地に楽器を贈る活動を進めているとし、「母の実家のある津で、皆さんと一緒に、被災地のために少しでも力になれればうれしい」と話した。

問責決議で神経戦

会期末攻防激化 審議拒否に内閣改造も

国会会期末を9日に控えた7日、与野党の攻防が激しさを増した。野党側は一川保夫防衛相らに対する参院での問責決議案を武器に、野田佳彦首相を追い込む構え。一川氏らが続投した場合の年明け通常国会での審議拒否まで検討。一方、何としてでも消費税増税論議に野党を巻き込みたい首相側では年明けの内閣改造論が浮上した。攻防は神経戦の様相だ。【1面参照】

「この内閣が一日でも続くことは国家のためにならない。特に2人の閣僚には資格がない。不退転の決意で臨む」

7日の自民党参院議員懇談会。中曽根弘文参院議員会長は、一川氏と山岡賢次消費者行政担当相の問責決議案を9日に提出すると明言した。山本一太前参院政審会長も「衆院解散・総選挙に追い込む。正念場だ」と気勢を上げた。

与党が参院で過半数割れする中、野党にとって問責決議案は「伝家の宝刀」。ただ首相に決議を〝無視〟され通常国会冒頭から審議拒否した場合に世論の理解を得られるのかについては、自民党内にも懸念がある。

「あらゆる審議をボイコットするのか、議場でピケを張るのか」。7日の懇談会で丸山和也参院議員がただすと、脇雅史参院国対委員長は「一川氏らを代えるまで審議は始まらない。自信を持ってほしい」と訴えた。

一川、山岡両氏について野党各党の賛否が割れるのも悩みの種だ。たちあがれ日本の片山虎之助参院幹事長は記者会見で「一川氏は当選確実。山岡氏は当落線上」と指摘した。

対する政府、与党は、7日になっても重要法案の成否を示せず、混乱が続いた。郵政改革法案成立を求める国民新党の亀井静香代表は党議員総会で「当然、会期を延長しなければならない。今日明日が勝負だ」と力説。一方で、記者団が成立に向けた政府、与党の取り組み具合を問うと「知るか」と吐き捨てるように語り、不満をあらわにした。

民主党幹部は首相官邸に「年明けの通常国会前に内閣を改造して、一川氏ら『問題閣僚』を代えればいい」と進言した。

菅直人前首相が使った妥協策だが、対応を年明けまで持ち越せば野党側が態度を硬化させ、政権が目指す消費税増税に関する与野党協議の実現は一層遠のきかねない。政権の視界不良は解消されないままだ。

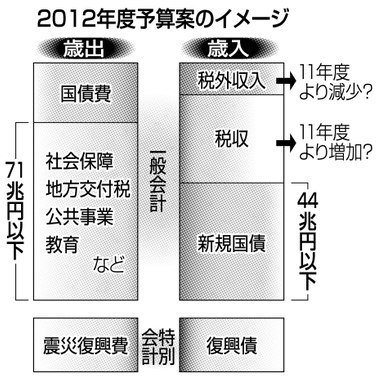
社会保障、交付税で攻防

12年度予算編成が本格化

2012年度予算案の編成で、歳出を切り詰めたい財務省と増額を求める各省との攻防が激化してきた。歳出増の圧力が特に高い社会保障と、自治体に配分する地方交付税が焦点。政府は財政再建路線を守るため、借金返済に充てる国債費を除く歳出を11年度当初予算並みの71兆円以下に抑える方針だが、24日ごろの政府案決定に向け調整が続きそうだ。

政府が8月に策定した中期財政フレームは、71兆円の歳出枠に加え、12年度に新たに発行する国債を11年度当初と同水準の44兆円以下とする目標も設定。東日本大震災の復興費用や、復興費を賄うために発行する「復興債」は対象外とし、特別会計で別枠管理する。

社会保障では、医師が診察した際の対価や医薬品の価格である診療報酬と、介護サービス事業者に支払われる介護報酬の改定が争点。診療報酬を1％上げると国費が約900億円増え、介護報酬は1％アップで約230億円の歳出増になる。



厚生労働省は「診療報酬は据え置きもやむを得ない」としているが、介護報酬は、介護の現場で働く人の待遇改善のために大幅アップを要求。財務省は診療報酬を引き下げ、介護報酬は上げ幅を最小限にとどめたい考えで、両省の溝は大きい。

交付税では、交付税特別会計への繰入額を6400億円増やすよう求めている総務省と、「繰入額を11年度並みに抑えないと71兆円の歳出枠が守れない」とする財務省が対立している。

11年度は特会への繰入額を7千億円減らしたが、特会にためていた10年度からの繰り越し分1兆円を使い、自治体への配分額を5千億円増やした。しかし、12年度は巨額の繰り越しは見込めず、繰入額を大幅に増やさないと自治体への配分額が減る可能性が高いだけに、総務省も必死だ。

歳入面では、震災復興需要にも支えられ、税収は増えると想定されるが、11年度予算で7兆2千億円あった税外収入は「数兆円減りそうだ」（財務省）。税外収入の柱である特会の剰余金など「霞が関の埋蔵金」の一部を復興に回すため、新規国債を44兆円以下に抑える目標の達成に向け、ぎりぎりの財源確保を迫られそうだ。

外来負担縮小を検討

民主の税制調と一体改革調 社会保障制度で協議

両調査会は当初の日程を変更、16日までに社会保障改革案を取りまとめ、19日から消費税増税の議論を本格化させる予定。関係者からは大綱素案取りまとめは年末ぎりぎりになるとの見通しも出始めている。

合同会議では、厚生労働省が、受診時定額負担に関し「来年の通常国会への法案提出に向け、引き続き検討」とし、セットとなる高額な医療費を軽減する「高額療養費制度」の拡充も「検討する」とした中間報告を説明。

出席議員からは「不景気なのに、なぜさらに国民負担を求めるのか」「受診の抑制につながる」などの反対意見が続出。

このため、制度の詳細を検討する党ワーキングチーム（WT）が、定額負担を縮小・廃止した場合の高額療養費制度の在り方を検討することになり、来週の会議で見直し案を提示する。

これに先立ち、政府は一体改革大綱素案の年内策定に向け、関係5閣僚による初会合を開催。負担増となる政策を国民に丁寧に説明していく方針で一致した。

民主党の社会保障と税の一体改革調査会（細川律夫会長）と税制調査会（藤井裕久会長）は7日の合同会議で、社会保障制度改革について協議した。外来受診の際に100円程度を上乗せする「受診時定額負担」の導入見送りを求める声が集中し、負担額の縮小などを検討することになった。

減税案、本会議で否決

名古屋市議会 河村氏、住民投票案提出も

名古屋市議会は7日午後の11月定例議会本会議で、河村たかし市長が最重要公約に掲げる市民税10％減税条例案に関し、市長が率いる政治団体「減税日本」市議団が提案した、減税率を7％とする修正案を自民、公明、民主、共産各党の反対多数で否決した。

河村氏は否決後の記者会見で「来年度からの実施を諦めていない」と述べ、月内に臨時議会を招集し、否決を踏まえた修正案や、減税の是非を直接問う住民投票条例案提出の可能性に言及した。

しかし限られた時間で4党を翻意させるのは厳しいとみられる。減税を来年度から実施するには年内の成立が必要で、困難な情勢となった。河村氏は会見で「税金を下げて魅力ある都市にしようとした。怒りを感じる」と4党を批判した。

修正案は、個人市民税の「均等割」（3千円）について低所得者は千円とした。「一律減税は高所得者優遇だ」と主張する公明に配慮した。

しかし、4党は本会議で「厳しい財政状況の中で減税すれば、市民サービスの低下を招く」（自民）「修正案でも財源不足の問題は解消されていない」（民主）などと反論した。

減税条例案は河村氏が9月定例議会で提出したが、厳しい財政見通しなどから4党が強く反発。河村氏は「ぎりぎりの譲歩」として、減税日本市議団に修正案の提出を求めた。

斎藤官房副長官 沖縄知事に陳謝
「言語道断だった」

斎藤勁官房副長官は7日夜、沖縄県庁で仲井眞弘多知事と会談し、米軍普天間飛行場（宜野湾市）移設問題をめぐる前沖縄防衛局長の不適切発言について「言語道断だった。政府の一員として県民におわびしたい」と陳謝した。

総務政策委員長に飯田氏
桑名市議会役員改選

【桑名】桑名市議会は七日、再開し、役員改選により各常任委員会の正副委員長を選んだ。◎は委員長、○は副委員長。

▽総務政策＝◎飯田尚人○倉田明子▽福祉安全＝◎伊藤研司○愛敬重之▽教育経済＝◎杉浦繁生○大橋博美、飯田尚人、平野和一、石田正子、伊藤文一、佐藤会＝愛敬重之、伊藤徳宇、倉田明子、大橋博二、杉浦繁生、星野公平、鷲野勝彦、水谷義雄、南澤幸美、竹石正徳

白子駅前広場ロータリー 来年度に暫定供用開始
市鹿

【鈴鹿】鈴鹿市議会十二月定例会は七日、本会議を再開。太田龍三（市民クラブ）、大西克美（同）、中村浩（無所属）、後藤光雄（すずか倶楽部）、今井俊郎（政友会）の五議員が一般質問した。

大西議員は平成十九年四月に事業着手し、二十六年三月完成予定の白子駅前広場整備事業の進捗状況を質問。草川喜雄都市整備部長は本年度末の全体の進捗率想定を66％とし、駅西口広場南のシェルターなどの建築工事を本年度内に完成させ、来年度当初からは、改装したロータリーの一部暫定供用を開始するとした。市内交通危険箇所として県道稲生山線の早期整備を求める質問では、末松則子市長は「現場を見て危険と認識。できるだけ早期着手できるよう県に強く要望したい」とした。

中村議員は、マグニチュード9・0を想定した津波浸水予測に対応した避難所の見直しについて質問。寺田重和生活安全部長は、県が十月に発表した津波浸水予測図速報版に基づき見直した結果、市内収容・緊急避難所指定の二百九十五施設のうち、区域内の施設が二十五施設から五十六施設に拡大したと説明。市民への周知について「お示しする義務を少し怠っていた」を修正表示したハザードマップを全戸配布する考えを示した。

津市議会また空転

岡村市議の進行妨げた 渡辺市議、1日出席停止
一般質問

【津】津市議会第四回定例会は七日開き、岡村武（自由民主党市議団）、加藤美江子（公明党議員団）、杉谷育生（津和会）、平岡益生（公明党議員団）、前田勝彦（県都クラブ）の五市議が一般質問を終え、午後九時五十分、六日に続き延会となった。岡村市議の発言中に動議を出し、議会の進行を妨げたとされた渡辺晃一市議（一津会）の処分要求をめぐり、約六時間半の間、議会が空転したため。

岡村市議は、渡辺市議が発言した際、差別用語を発したとして渡辺市議が動議を提出。岡村市議は進行を妨げたとし、処分要求した。これを受け、七日に懲罰委員会が開かれ、再び議会は空転。渡辺市議は賛成多数で、一日間の出席停止となった。七日に予定されていた岩脇圭一市議（一津会）の一般質問は、八日に実施される。

派遣法成立 見送る方針
衆院委は可決

民主党は7日、派遣労働者の雇用安定に向けた労働者派遣法改正案の今国会成立を見送る方針を固めた。自民、公明両党と修正で合意し、同日夜の衆院厚生労働委員会で賛成多数により可決したが、みんなの党は「参院で十分な審議が必要」と主張。自公両党はこれに配慮し、9日の会期末までの参院採決が困難になった。

自公両党には、9日に予定されている一川保夫防衛相らに対する問責決議案採決を前に、野党の結束を維持したい思惑があるとみられる。

改正案は8日に衆院通過し、参院で継続審議となる見通し。政府、民主党は、来年の通常国会での成立を目指す。

改正案は雇用期間が「30日以内」の派遣を原則禁止し「日雇い」など労働者に不利な雇用契約を防ぐ。ただ、例外措置も政令で追加。製造業派遣の原則禁止規定を削除するなど当初の政府案は大幅に骨抜きとなった。

今年産水稲 南部の台風被害響く
県内作況「やや不良」

東海農政局は七日、今年産の水稲の作柄概況を発表した。台風6号や12号の影響で、県内の作況指数は九百八十（主食用）は十四万五千九百㌧となった。

地域別の作況指数と十㌃当たり収量は、北勢が九百八十の「平年並み」で四百八十㌔▽中勢が九七の「やや不良」で四百八十六㌔▽伊賀が九八の「やや不良」で五百十四㌔▽南勢が九五の「平年並み」で四百七十二㌔。七月の台風6号で南部の沿岸部を中心に穂ずれが発生して実りが悪くなったほか、12号の暴風による倒伏で発育が悪くなったことが影響したという。

収穫量は前年比七千百㌧減の十四万七千九百㌧で、当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は十四万五千九百㌧となった。

地域別の作況指数と十㌃当たり収量は、北勢が九九の「平年並み」で四百八十四㌔▽中勢が九七の「やや不良」で四百八十六㌔▽伊

編集 有